

1945年、夏・・・東京から疎開してきた文子、綾、かなえ、真理子の4人は寄宿学校で今日もお留守番。ある日、一機の飛行機が不時着する。

そこに乗っていたのは特攻隊員の青年だった。

そこから女学生と青年たちのふしぎな共同生活が始まる。

「終戦の夏」を過去のものにしてしまわないため、

そしてすべての「蛹」たちに送る、ひと夏の眩しい体験。

——泣き虫、弱虫、いじけ虫、かんしゃく虫。

こころの中の虫たちも、きれいな蝶にかわるのでしょうか？



皆さんは「モラトリアム」という言葉を知っていますか？これは、青年期に大人になるのを先延ばしにしている人を対象にした言葉だそうです。子どもでも大人でもない、いわば「蛹（さなぎ）」の状態です。きっと誰も「大人になりたくない」と思ったことはあると思います。この作品に登場する彼女たちも、その「蛹」なのです。戦争という現実から目を背け、4人の世界を楽しんでいる。しかし、2人の青年と出会うことでさまざまな価値観や個性を見つけ、現実にも目を向けようとしていきます。そして彼女たちはどんな「蝶」へと羽化していくのか。これを観て、いま「蛹」のみんなの羽化するきっかけになってほしい。そして、眩しく生きている彼女たちをとりまく「終戦の夏」は確かにあったということを感じてほしい。

《アンケートより抜粋》

- ・目の前にある「今」を大切に生きること。改めて心するような時間でした。
- ・生きること。死ぬということ。貫かれている明るさが印象的でした。
- ・何も知らない虫たちがどうして？と考える。まさに私たち。やっぱり考えなきゃ。



総合劇集団

俳優館

わたしの昆虫記

幼い虫たちと赤とんぼのおはなし

My Insect Diary

作・演出◎右来左往

出演◎みやちともこ

谷口真規

鈴木かえり

水原あきほ 他

照明◎古川博（ホタル・ギグ）

音響◎ノノヤママナコ

（マナコプロジェクト）

写真◎服部義安

上演の
お問い合わせ

俳優館 TEL / 052-203-8721 FAX / 052-203-8729 Email / ttm-mr@ss.iij4u.or.jp
〒460-0008 名古屋市中区栄 1-22-17 <http://www.hi-you-can.com>